

NKオンリーワン通信

VOL.38

発行：新潟北高等学校

25020138

「餅つき」に続く今年2回目
の県立幼稚園との体験交流は
少し早めの「豆まき」。



そもそも節分とは本来、「季節を分ける」、つまり季節が
移り変わる節日を指し、立春を新年と考えたとその前日にあたる2月3日は大晦日。新年
を迎えるに当たっての厄除け行事が、室町時代以降に豆をまいて悪鬼を追い出すものへと
発展し、民間にも定着していったとのこと。

今回は1年生11人が参加。当日までに「鬼の面」を作って準備は整い、県立幼稚園へ
と向かった。

昨年はこの日大雪に見舞われ、予定を一部変更して行われたが今年は天候にも恵まれ、
絶好の豆まき日和となった。

豆まき交流体験実習～H25.1.31



到着後はまず手分けをして用具の準備と「豆を炒（い）る」作業の手伝い。生の豆を使うと拾い忘れた豆から芽が出てしまっていて縁起が悪い、また「炒る」は「射る」にも通じるなど、多くの理由があり、豆まきに使う豆は正式には炒った豆でなくてはならないそう。玄関に立ちこめる香ばしい香りが園児たちを迎え、いよいよ雰囲気も盛り上がる。

<ほし組との交流>



まずは「ほし組」さんの園児たちと田村先生の進行で顔合わせ。

その後みんなで縄跳びと追いかけて玉入れで交流。園児たちの積極性に助けられ、すぐに打ち解けた様子。会話も弾み、順調な滑り出し。そうこうしているうちに予定の時間はあっという間に経過。「もっと遊びたかったー。」という声とともに園児たちは一旦保育室へ。いよいよ豆まきの準備。



「鬼は誰にする？」作戦会議



アドバイスの効果は？お陰で上達したかな

<豆まき集会>



園児全員が遊戯室に集合し、豆まき集会。全員で「豆まきの歌」を歌った後、辻先生から節分のいわれについて話を伺う。高校生もとっても勉強になりました。

続いて園児たちの代表と高校生が自分の中の退治したい鬼をみんなの前で発表。「あわてんぼ鬼」「夜寝ない鬼」等々、全部自分に当てはまって冷や汗たらり。

全員で「赤鬼と青鬼のタンゴ」を元気に踊った後、ドラえもんにした園長先生（新潟北高校長が兼務）の豆まきの見本を合図

に全員で「鬼は一そとー!!」「福はーうちー!!」。

楽しく豆をまいていると突然太鼓とシンバルの音が…何と赤鬼と青鬼が遊戯室に乱入!! 金棒でバシバシ床を叩きながら園児たちを襲う。勇気ある高校生が園児をかばうが鬼は難なくこれを突破、逃げ惑う園児たちを追い詰める。ここで園児たちはみんなで力を合わせて逆襲。豆を思い切り鬼めがけて投げつけるとたまたま鬼は外へ逃亡、みんなで「ばんごーい!!」。



園児を襲う青鬼。「逃げろー！」

鬼を退治しみんなで勝ちどき

<おやつ時間>

全員で豆をひろい、「春よこい」を歌った後はそれぞれの保育室に入ってみんなでおやつ。高校生も各部屋に別れ、いっしょにおやつをいただきながら園児たちとの会話を楽しみ、体験交流は終了した。

わずかな時間であったが、純真無垢な園児たちからたくさんを学んだことと思う。また、幼稚園の先生方に大変なご協力をいただいたおかげでこの体験交流が実施できていることを忘れてはならない。

今回の経験をどう生かしてくれるのか、今回参加した生徒のこれからの期待したい。



この広報は、新潟北高等学校ホームページ
http://www.niigataki-h.nein.ed.jp/gakKou/top_gakKou.htmlにも掲載しています。